ラストW杯でWエース躍動!! 出場枠4獲得

堀島 川村 アベック・V

前回女王下し堀島と2度目同時V

フリースタイルスキーW杯モーグル第9戦（14日　米コロラド州ディアバレー）

北京五輪前最後の一戦は、男子で堀島行真（24＝トヨタ自動車）が84・04点をマークし今季3勝目を挙げた。通算でも11勝目となり、五輪ら大会連続入賞した女子の上村愛子を超え、日本歴代単独最多に浮上した。女子も川村あんり（17＝東京・日体大桜華高）が80・89点で今季、通算とも3勝目。日本勢は男女ともに五輪出場枠を「4」獲得し、本番へ最高の弾みをつけた。

BEIJING 2022 北京五輪 あと19日
北京パラあと47日

女子で優勝した川村（AP）

W杯モーグル第9戦の男子で優勝した堀島（AP）

◇モーグルW杯男子総合成績上位◇

順	選手名（国・所属）	計
①	キングズベリー（カナダ）	572
②	堀島　行真（トヨタ自動車）	560
③	ウォルバーグ（スウェーデン）	345
④	杉本　幸祐（デイリーはやしや）	299
⑦	原　大智（日本スキー連盟）	182
㉒	松田　颯（しまだ病院）	83

※得点はデュアルモーグル除く

◇モーグルW杯女子総合成績上位◇

順	選手名（国・所属）	計
①	川村あんり（東京・日体大桜華高）	549
②	ラフォン（フランス）	510
③	アンソニー（オーストラリア）	505
⑥	住吉輝紗良（日大）	210
⑧	富高日向子（多摩大）	185
⑪	星野　純子（リステル）	166

※得点はデュアルモーグル以下は五輪ランク上位の選手を選抜した旨オール選抜

笑顔で優勝を喜ぶ堀島と川村（共同）

唯一の84点台

日本男子のエースが拳を突き上げ「好調を キープしたまま五輪へ 勝。金メダル候補に躍

84点台 平昌は前年の世界選手権で2冠を達成し、一躍注目を浴びた。五輪前最後のW杯で初優勝。右手のをマーク。

1・20点も上回った。

五輪初出場だった利数を更新し「これから先も優勝回数を重ねていきたい」と話したが、その前に大一番が控える。決勝は開会式翌日の2月5日。日本勢金メダル1号の期待も懸かる堀島は、「五輪王者になるための練習をして挑みたい」と力強く宣言し

本勢の最多勝

ターン点唯一48点台

男子よりも先に行われた決勝で、川村も前回五輪女王のラフォンらを下して優勝。堀島との男女同時Vは昨年12月の第2戦以来2度目で、終了直後のフラッシュインタビューでは流ちょうな英語も披露。「素晴らしい気分。五輪直前に勝てて誇りに思う」と話した。

昨季は優勝こそなかったがW杯総合2位。強じんな下半身の力を利用したターンを得意とするが、オフには男子のように縦に板を滑らせるカービングの技術を磨いた。

2位のアンソニーにエアでは1.76点差をつけられながら、ターン点はただ一人48点台。コブの衝撃をしっかりと膝で受け止める高い技術は、北京でも生きてくる。これで種目別のW杯ランクの首位も奪回。17歳で表彰台に上れば、冬季五輪の日本女子最年少記録となる。

星野2大会ぶり五輪へ

○…14年ソチ五輪代表で32歳の星野が、21歳の柳本との激しい北京五輪代表争いを制した。一時は柳本に抜かれたが、前日の第8戦で逆転。この日の11位でリードを守り「紆余（うよ）曲折の道のりだったが、ようやくまたスタートに並べた」と感慨深そうだった。25位だったソチ大会の雪辱を期す。「今回は悔いなく笑顔で終われるようにしっかりと準備したい」と、集大成と位置づける大舞台へ集中を高める

◇堀島、川村の今季W杯成績◇

戦	月日	開催地	堀島	川村
①	12. 4	ルカ（フィンランド）	3位	9位
②	11	イドレ（スウェーデン）	優勝	優勝
③	12	※イドレ（スウェーデン）	2位	5位
④	17	アルプデュエズ（フランス）	優勝	2位
⑤	18	※アルプデュエズ（フランス）	3位	14位
⑥	1. 7	トランブラン（カナダ）	3位	優勝
⑦	8	トランブラン（カナダ）	3位	3位
⑧	13	ディアバレー（米国）	2位	優勝
⑨	14	ディアバレー（米国）	優勝	2位

堀島ターン技術が向上　総合力で戦えている

附田雄剛の目

今季の堀島には勝ちパターンがある。第1エアで圧倒的に大きな空中技からクリーンな着地を決め、会場の雰囲気を持っていく。この日も同様で、無理にアタックしなかったキングズベリーを上回った。以前は攻撃性の高い滑りが売りだった一方、エアではミスも多かった。ターン技術が向上し無理にエアで得点を稼ぐ必要がなくなったことで精神的にも余裕が生まれ総合力で戦えているのが進化といえるだろう。

五輪の金メダル争いはキングズベリーとの一騎打ちとみる。2人とも、もっと難度の高い空中技を持つが、W杯では審判の傾向を読み、完成度に重きを置いてきた。五輪コースは映像を見る限り、第1エアも十分な高さがあり、難度の高い技が可能だ。2人がどんな選択をするかが勝敗を左右しそうで、興味深い。

女子はターンのラフォン、エアのアンソニーに対し、粗削りながらスピードを含む総合力で戦えるのが川村の強み。17歳とまだ若く、本番までの3週間でも伸びしろがある。あとは初の五輪に挑むメンタルづくりが重要となる。指導者の腕の見せどころだが、今の日本のコーチ陣ならうまく本番へ導いてくれるだろう。

（五輪4大会連続代表、神立フュージョンバンプスクール校長）

み狙う

回転ループを ャンプとして 中盤の4回転 続ジャンプを 後半に配置。 回転サルコー ンプに変更 「ノーミ

楽しんで、いろんなことを感じて経験していけたら」と前向きに話した。

宇野右足回復良好

○…18年平昌五輪銀メダルで2大会連続出場となる宇野昌磨（トヨタ自動車）も、鍵山と同じリンクで汗を流した。フリーの曲かけではループ、サルコー、トールループの4回転などを降りた。年末の全日本選手権後は「（負傷した）右足を治して早く練習したいと話っていた